

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4078900216
法人名	有限会社 裕和
事業所名	グループホームまほろば
所在地	福岡県柳川市三橋町正行351
自己評価作成日	平成25年12月25日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/">http://www.kai gokensaku.jp/</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	平成26年1月14日	評価結果確定日	平成26年2月6日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自宅に在ると同様にくつろぎ、生活を楽しんでいただけるよう生活環境を整えることに力を入れており、少人数の良さを活かし個人個人に合わせた密なケアができるようにしている。活動も毎日行い、一人はボール投げ、一人は習字などのように好きな活動を選んで好きな時に好きな事が出来るように配慮している。また、地域との交流も盛んで、施設としてではなく地域住民の一員として扱ってもらっているように感じる。地域行事にも積極的に参加し、日常的に交流もある。医療面においても多様な医師に協力して頂き、不安なく終末期まで生活を送ることが出来るように環境を整えている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

開設から8年経過し、地域行事への参加や隣近所から取れたての野菜を頂いたり、日常的な交流が盛んに行われ、地域との一体感が感じられる。防災意識が高く、毎朝防災担当者を順番に決めて、火元チェック表を点けている。2年前の水害の際にも早めに利用者全員を総合庁舎に避難誘導した事により、孤立を免れている。「楽しく自分らしく」を理念に掲げ、日々実践につなげており、利用者それぞれができる範囲の役割を持ちつつ、生き活きと過ごされている。また状態に合わせたレクリエーションを行って機能維持に取り組んでおり、利用者、家族の安心度の高い事業所である。

## サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+ ) + (Enter+ )です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	簡単ではあるが「楽しく自分らしく」を理念として掲げており、入所者様の人格を尊重し楽しみながら生活して頂けるよう努力している。ホームの玄関に理念を掲げホームを訪れる方全員に分かるようにしているとともに、管理者と職員は朝礼時に確認するようにしている。	利用者が「楽しく自分らしく」暮らし続ける事の大切さを意識した理念を作り上げている。毎朝、職員全員で理念を唱和し、利用者本位に過ごせるように努めている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事には必ず声をかけていただけており積極的に参加している。また、近隣の方々とは日常的に交流があり気軽に遊びに来ていただけたり、採れた野菜等を頂いたりと良好な関係が築けていると思う。	地域行事の神社の清掃やお祭りなどに参加している。また、近隣の方々が畑の作物の差し入れや話し相手に来られるなど、日常的に地域との交流が図られている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議やホームでの行事等の際に認知症の基本、支援の方法をお伝えしている。個別に相談に来られる方もあり、徐々に地域へ「認知症」の情報が伝えられているのではないと思う。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議においては、利用者やサービスの実態への報告を行うとともにホームがよりよくなる為の知恵等を頂き、話し合っている。また、そこで話し合った内容については全職員に伝え、サービス向上のために努力している。	区長・老人会会長・民生委員・市職員・家族代表などが参加している。事業所の運営実施状況や避難訓練、外部評価結果報告などを行っている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当の方とはよく連絡を取り合っている。また協力関係も取れていると思う。高齢者や認知症の相談など、市から回ってくることも多い。	日頃から市担当者と報告・連絡・相談などは密に行い、事業所の運営に活かしている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外へ出られたい徘徊者がいらっしゃるので玄関の施錠は場合によっては行うこともある(人が出ない場合、目が離せない等)。しかし、本人が出たいとおっしゃれば職員が対応するので自由はあると思う。またその他の拘束については全く行っていない。	研修会やスタッフミーティングなどを通して、全職員は身体拘束のリスクを十分に理解し、利用者の自由を拘束しないように努めているが、一部家族の同意を得て日中玄関の施錠をやむなくしている。	利用者の人権を守ることがケアの基本であるという認識に立ち、鍵をかけずに安全に過ごせる工夫が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会などで虐待については学習し、職員全体が把握している。また、日常的にも本人の様子などには気を付け、観察している。さらに入浴の際などの傷がないか確認、言葉使いなどにも注意している。		
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会社全体の勉強会などで学習する機会を設けている。職員それぞれが概要を把握し相談にも対応できるように努めている。あまり相談自体はないがいつでも対応できる様、パンフレット等も用意している。	全職員は研修会やスタッフミーティングなどを通して制度について理解を深めている。パンフレットは常備されており、資料を基に説明できる状態である。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	行っている。入所時に重要事項説明書、契約書を用い、詳しく説明している。お互いに納得した上で契約を行うようにしている。解約、改定の際は来所していただき、文書にて説明後に確認の署名をしていただいている。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、役立てている。内容については職員に知らせ、記録に残し改善するようにしている。要望については入所者については随時、家族については面会時に聞くよう心がけている。	家族が気軽に意見や苦情を言えるように、日頃からコミュニケーションを取るようになっている。また、玄関には意見箱を設置して意見収集に取り組み、それらをスタッフ会議などで話し合っって日々のケアに活かしている。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見については職員が言いやすい環境が整っていらしく、意見・提案はたびたび言ってもらっている。特に機会は設けていないが、思いつく都度言ってもらえていると思う。朝礼時や雑談の際などにもいい意見を聞く事が出来ている。	施設長・管理者は、職員が働きやすい職場となるよう、日頃のコミュニケーションによって話しやすい雰囲気作りをし、共にケアの充実を目指している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	整備に努めている。実際に管理者と職員が共に働いているので、状況把握もしっかりできている。職場は楽しいと言ってくれる職員もあり、少しは環境整備も出来ているのではないかと思う。仕事には無理がないようにしている。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用条件として、性別や年齢が理由になった者はいない。今後もない。また、施設には男女ともに様々な年齢の者がおり、地域・性格も多様であるが、皆協力し合い楽しく仕事が出来ているのではないかと思う。	職員の採用時には年齢や性別による排除は行っておらず、働く意欲や人柄を重視している。また、研修参加や資格取得への支援も行っており、スキルアップや自己実現につながるよう配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権については日常生活の中で確認し合っている。また、勉強会などで入所者への接し方などを学習し日々の介護生活に活かすようにしている。また人権については外部の研修会などにも参加するようにしている。	勉強会や研修会などを通して日常生活自立支援事業や、成年後見制度についての理解を深めている。また、管理者自ら、日々の支援の中で職員の育成に努めている。	
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホームでの勉強会に加え、外部の研修等も積極的に参加している。研修は適したものがあれば情報を公開し自由に学習してもらう機会を与えている。また、介護福祉士の試験や、初任者研修等積極的に参加してもらおうよう勤めている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入し、研修などに参加している。市の事業者協議会などあればさらに交流が出来てよいと思うが。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人・家族と面接し要望等聞くようにしており、本人に可能な限り入所前に施設見学をしていただき、生活の場を体験してもらうようにしている。入所初期は特に密に話を聞き生活の不安感を無くすよう心がけている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所予約時に出来るだけ密に話を伺い、入所時には要望に沿った介護を勧められるよう環境を整えている。また、面会時、電話等何時でも話を聞けるような関係作りをしている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	すぐにでも入所されたい時に空きがない、入所が必要ないと考えられる場合等して御希望に添えない場合は、他の介護サービス利用の相談に乗り、他機関の相談を行うなどしている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「介護してあげる」という感覚を無くし、同じ家族のような関係性を持ち、お互いに助けあおうという姿勢で生活できる様努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	家族に対しては支援する立場に回りが ちであるが、入所者様の希望に添える よう面会や外出の要請をしたり、介護 相談に乗ったりのられたりするような 関係は築けていると思う。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所 との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望に添い、友人に連絡したり面会 に来てもらうなどを行っている。また、御 寺参りには行事ごとに参加している。また 以前はなじみの俳句の会、将棋の集まりな どもに参加していた。	馴染みの喫茶店に出かけたり、事業所 に友人が訪ねて来るなど、今までの関 係が途切れないよう支援している。ま た、家族や友人との面会機会が増える よう声かけをしている。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	利用者様同士が会話ができるよう毎日 会話の場の設定をしている。また、協 力して行動出来る様な活動も多く 行っている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後は入院・死亡がほとんどである為、 本人や家族の状態等については随時確認を とりフォローを行っている。相談にも乗 り、入所時と変わらぬ関係性を保ててい ると思う。また、他施設へ入所などの際も状 況に応じて支援を行っている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	毎日の生活は一切強要せず自分の好きなよ うに過ごしてもらっている。活動中も本 を読んだり手芸をされたり自由に過ごして もらう事できる。また、食事の時間や場 所、入浴も臨機応変に出来る。	日常の関わりの中での会話や表情、行 動により、利用者の思いや意向の把握 に努めている。また、一人ひとりに担 当を決め、より深く意向が把握できる ようにしている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	入所前にもアセスメントは取っている が一緒に生活をしながら、本人や家族 から情報を得ている。情報をもとに本 人に添った生活を送っていただけよう 心がけている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	日々の個別記録をつけている。毎日バ イタルチェック、尿便の量と回数、食 事量、水分量等確認し、会話や行動か ら本人の心身の状態を把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画を作成する際には、本人・家族・医師・職員のそれぞれの意見を聞き反映させている。また、運営推進会議等の機会を使い、第三者にアイデアをいただく事もある。	担当者が個別にモニタリングを行い、サービス担当者会議に持ちよって再確認しながら介護計画書を作成している。また、利用者の状態変化があれば、その都度介護計画書を見直している。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子を職員に記録してもらい、都度話し合い介護計画を見直すようにしている。また、朝礼時等に職員間で情報を共有している。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	少人数であるので、多様なニーズには対応できていると思う。食事の時間や入浴、医療往診、診察もも本人のニーズに合わせたものとなっている。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との連携は強く、各行事に参加させていただいている。社会とのつながりが希薄にならないように努めている。また、当ホームで行う夏祭りや敬老祭などにも地域の方に参加して頂いている。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診については、当ホームのかかりつけ医以外にもそれぞれ希望される主治医がおられ、自由に診察を受けられている。各医師とホームとの連携も出来ており、情報は交換し合っている。	提携医による往診や他機関の専門医に繋げるなど、利用者が安心して適切な治療が受けられるよう支援している。受診後は家族への説明をその都度行い、連携に努めている。	
33		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタル等の日々の変化についてはこまめに記録を取り、看護師に相談している。看護師は訪問しない日でも何か変化が見られたら直ぐに連絡を取りアドバイスを受けられる体制が整っている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	行っている。入院された際は、ほぼ毎日面会し医師や看護師、家族との情報交換を行っている。また日頃より地域連携室などを訪問し、たがいに相談し合うようにもしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にターミナルケアについては説明を行い、一旦同意書などを記入して頂いている。それから終末期が近づいてきた際に、再度医師や看護師を交えて説明を行い、話しあうようにしている。ターミナルケアは経験があり、体制は整っている。	契約時に「重度化した場合の対応についての同意書」をもらっており、現在までに4度の看取りを経験している。可能な限り安定した状態で生活が継続できるよう支援しており、主治医を中心とした医療体制ができています。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当、初期対応については少なくとも年に1回行い、状況に応じて適時訓練するようにしている。各職員が一人ででも実践できるよう訓練を重ねている。		
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練、地域との連携共に出来ていると思う。実際、柳川の水害時には早めの避難を行い、被害もなかった。また、その際地域、行政とともに協力して頂く事が出来た。	消防署の指導のもと夜間想定を含む、年2回の避難訓練を実施している。利用者が避難できる方法を全職員が身につけており、地域との協力体制も築いている。	
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇、人権については勉強会を開催し対応方法については学習している。また、言葉のかけ方については、毎日随時指導、見直しを行っている。プライバシーに関しては出来る限り尊重し、楽しく生活してもらるように努めている。	研修会、スタッフミーティングなどにおいて再確認を行い、日常の支援の中で一人ひとりに合わせた言葉かけや対応を行っている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が何か行動を起こす際には必ず利用者の意向を尋ねるようにしている。また、言葉が発せられない人でも表情や態度で判断していくように心掛けている。出来るだけ自分の好きなように自由に生活して頂けるようにしている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の体調や希望に合わせて、日々のスケジュールは決定している。ある程度の流れはホームで決めているが、自由に参加し他にしたい事等あればそちらを優先されるようにしている。食事の時間や入浴の時間等も臨機応変になっている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に添い、その日の服装等は決定している(希望がない人は季節に合った服装を職員が心掛けている)。また美容室の利用や服などの買い物にも自由に行けるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	雑談時等に食べたい物や作ってみたいもの等を聞き、メニューに取り入れるようにしている。準備はできる人が少ないが、簡単な手伝いや後片付けに関しては職員と利用者が共に行うようにしている。	近隣より頂いた新鮮な野菜を使い、季節折々の食事を提供するなど、食の楽しみを工夫している。また、食事の時は職員も一緒に同じ物を食べながら支援し、食後は利用者の力量に応じて片付けを手伝ってもらっている。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリーや水分量はしっかり計画した上で食事を支援している。本人の状態に合わせて食べるものや量、堅さなどを変えている。また、水分、食事量は毎日記録し、健康状態の把握にも努めている。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。必要な方には入れ歯洗浄液を利用したりもしている。また、歯科医の往診なども利用し、口腔内の健康にも配慮している。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけ自分でトイレへ行っていただけるよう各個人に合わせたトイレ誘導を行っている。またオムツからの自立を目指し、声かけやおむつの使用方法等を検討し支援しており、実際にオムツの量が減っていかれる方がほとんどである。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、さりげない声かけや見守りの中で時間を見計らってトイレ誘導を行っており、排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に食事や水分などには気をつけている。運動にも配慮しているが腹部マッサージや医師への相談、薬剤の適切な使用等、予防や治療に取り組んでいる。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	一応週に3日と入浴日は決まっているが、その人の気分や都合に合わせて臨機応変に対応するようにしている。時間についてもできる限り希望に沿えるようにしている。	基本は週3回と決めてはいるが、希望があれば個々に応じた入浴ができる。本人の希望や体調に合わせた入浴支援を行っている。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は出来れば体を動かしてもらえるようにしているが、何時でも休息できるように自室の環境も整えている。また自宅と同じように気持ちよく眠れるよう、空調や寝具の調整も本人の希望により設定している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々に薬の一覧表を作り、効能と副作用等を記している。各担当者が全て把握しており、毎日変化をチェックするようにしている。症状の変化があった際にはすぐに医師に連絡が取れるよう連携もできている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日自分の好きな事をしてもらえよう支援している。また、生活歴や趣味等は入所時に本人や家族に聞いているが、ホームで生活していく上で新たな趣味等が見つかる場合も多いので生活を見ながら支援するように心掛けている。		
51	(21)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日光浴や散歩などにはよく出かけるが、その他の戸外には徘徊、認知症の悪化などによりその日の希望に添えない事もあり努力せねばならないと思う。本人の希望があり、家族の協力が得られる場合には外出を勧めている。また、年に数回バスハイクを行い、全員で外出を行うようにしている。	近隣への散歩は日常的に行われ、季節折々の花を楽しめるように努めている。また、みやま清水山・神社など、利用者の希望に沿って外出することで気分転換が図られている。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でお金を持っていらっしゃる方も数名あるが、その他の方はホームで預かるようにしている。希望があった場合には、すぐに取り出し使用が出来るようにしている。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも電話、手紙が書けるようにしている。暑中見舞いや年賀状は全員が出すようにしているが、それ以外でも随時希望者にはハガキ、切手を購入し使ってもらえるようにしている。字が書けない方は、職員が代筆などして支援している。		
54	(22)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	特に季節感には配慮し、認知症の方でも今の季節が何なのか分かってもらえるように配慮している。また、落ち着いて生活できるよう華やかな環境は控え、清潔を保つよう心がけている。	食堂兼居間は吹き抜けになっており、明るく清潔感のあるスペースとなっている。周りの壁には利用者が作成した作品が飾られており、ゆっくり寛げる居心地の良い場所となっている。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設が狭い為、共有空間で一人になる事は難しいが、出来るだけ仲の良い友達同士で座るようにしたり、気軽にお互いの自室に訊ねていけるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	(23)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し、自室に置くものを決定している。人によってはTVも持ってきている人もあり、基本は自由である。自室に物が少ないような人は、本人が作った制作物や好きな写真等を飾るようにしている。	居室にはタンスやテーブルなどの使い慣れた家具や家族の写真など、愛用の品が持ち込まれており、居心地良く過ごせるよう工夫している。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室やトイレの場所等は本人が分かりやすいように表示を工夫しており、なるべく自分の事は自分でできるようにしている。また、建物内部は手すり、バリアフリーになっているが、その他にも転倒しないように廊下には物を置かない等の配慮もしている。		